

2.小2免許特別プログラム受講者アンケート

小学校2種免許特別プログラム履修に関する意識調査

玉川大学教師教育リサーチセンター

文部科学省委託事業により、アンケートにご協力ください。

*下記質問に対して、【】内の該当する回答に○、また記述にて回答をお願いします。

1. あなたは入学前にこのプログラムのことを知っていましたか？

【知っていた・知らなかった】

2. 【知っていた方のみ】このことは本学入学を選択する上で、どの程度の重要性がありましたか？

【中高免許と同時に小2免許取得できることが一番重要・単に選択理由のひとつ】

3. 入学の際、小学校免許取得可能な教育学部へ入学しなかった理由を選択してください。

- 【1. 現在の学部で取得できる免許種を取得した上で、小2免許を取得しなかった。
- 2. 現在の学部だけにこだわりはなかったが、教育学部には取得したい免許種がなかった。
- 3. 本当は教育学部へ入学したかったが、入学できなかった。
- 4. その他(理由:)】

【1. を選択した方のみ】なぜ、そのように思われたか理由を自由に記してください。】

4. 受講開始した時点と現在を比較して、小学校免許取得への意欲はどのような状態にありますか？

【受講開始時のほうが意欲は高かった・変化はない・現在のほうが意欲は高い】

5. 4の回答理由は何ですか。自由に記してください。

6. 受講開始時と現在を比較して、小学校免許取得までの具体的な履修内容・方法への理解はどのように変化しましたか？

【現在のほうが履修内容,方法の理解は深まった・まだあまり変化はない】

7. 小2免プログラムの履修方法について、以下のどの履修形式が望ましいですか？

【1. 全ての単位を対面式（スクーリング形式）で取得する。2. 全ての単位をレポート・試験（テキスト履修）で取得する。 3. スクーリング履修とテキスト履修の両方で取得する。

4. その他（ ）】

8. 本プログラムにより通学課程の授業と、通信教育課程の授業・レポート作成・試験による単位取得方法の両方を経験して、どのような力がついたと感じますか？

※ 最後に下記項目について教えてください。回答のすべては統計的に処理し、回答の内容が他に知られたりすることはありません。

1. 所属学部学科【 学部 学科】

2. 性別【男・女】

3. 教員を第一に希望する学校種は【小学校・中学校・高等学校】

以上です、ありがとうございました。

小学校2種免許特別プログラム(数学教員養成プログラム含む)履修に関する意識調査 集計表

No	1.あなたは入学前にこのプログラムのことを知っていましたか?	2.【知っている(のみ)】このことを本学で、どの程度選択するうえで、どの程度の重要性がありましたか?	3.入学の際、小学校免許取得可能な教育学部へ入学しなかった理由を教えてください	4.受講開始した時点と現在を比較して、小学校免許取得への意識はどのように変化しましたか?	6.受講開始と現在を比較して、小学校免許取得までの具体的な履修内容・方法への理解はどのよう変化したか?	7.小2免許プログラムの履修方法について、以下のどの履修形式が望ましいですか?				1.所属学部							2.性別		3.第一希望学校種							
						① 現在のほうが意識は高い	② 変化はない	③ 受講開始のほうが意識は高かった	④ その他	① 全ての単位を対面式(スクリーニング形式)	② 全ての単位をレポート・課題取得	③ スクリーニング履修と課題取得の併用	④ その他	人間文学部	比較文学部	マネジメントサイエンス部	リベラルアーツ部	リベラルアーツ部	芸術学部ヒジュアルアーツ	芸術学部パフォーマンスアーツ	男	女	小学校	中学校	高等学校	小学校併属
1	1	1		現在のほうが意識は高い	現在のほうが履修内容、方法は深まった	① 全ての単位を対面式(スクリーニング形式)	0	14	0	3	5	2	7	7	1	1	7	12	10	4	4	4	1	1	1	1
2	1	1		現在のほうが意識は高い	現在のほうが履修内容、方法は深まった	① 全ての単位を対面式(スクリーニング形式)	0	14	0	3	5	2	7	7	1	1	7	12	10	4	4	4	1	1	1	1
3	1	1		現在のほうが意識は高い	現在のほうが履修内容、方法は深まった	① 全ての単位を対面式(スクリーニング形式)	0	14	0	3	5	2	7	7	1	1	7	12	10	4	4	4	1	1	1	1
4	1	1		現在のほうが意識は高い	現在のほうが履修内容、方法は深まった	① 全ての単位を対面式(スクリーニング形式)	0	14	0	3	5	2	7	7	1	1	7	12	10	4	4	4	1	1	1	1
5	1	1		現在のほうが意識は高い	現在のほうが履修内容、方法は深まった	① 全ての単位を対面式(スクリーニング形式)	0	14	0	3	5	2	7	7	1	1	7	12	10	4	4	4	1	1	1	1
6	1	1		現在のほうが意識は高い	現在のほうが履修内容、方法は深まった	① 全ての単位を対面式(スクリーニング形式)	0	14	0	3	5	2	7	7	1	1	7	12	10	4	4	4	1	1	1	1
7	1	1		現在のほうが意識は高い	現在のほうが履修内容、方法は深まった	① 全ての単位を対面式(スクリーニング形式)	0	14	0	3	5	2	7	7	1	1	7	12	10	4	4	4	1	1	1	1
8	1	1		現在のほうが意識は高い	現在のほうが履修内容、方法は深まった	① 全ての単位を対面式(スクリーニング形式)	0	14	0	3	5	2	7	7	1	1	7	12	10	4	4	4	1	1	1	1
9	1	1		現在のほうが意識は高い	現在のほうが履修内容、方法は深まった	① 全ての単位を対面式(スクリーニング形式)	0	14	0	3	5	2	7	7	1	1	7	12	10	4	4	4	1	1	1	1
10	1	1		現在のほうが意識は高い	現在のほうが履修内容、方法は深まった	① 全ての単位を対面式(スクリーニング形式)	0	14	0	3	5	2	7	7	1	1	7	12	10	4	4	4	1	1	1	1
11	1	1		現在のほうが意識は高い	現在のほうが履修内容、方法は深まった	① 全ての単位を対面式(スクリーニング形式)	0	14	0	3	5	2	7	7	1	1	7	12	10	4	4	4	1	1	1	1
12	1	1		現在のほうが意識は高い	現在のほうが履修内容、方法は深まった	① 全ての単位を対面式(スクリーニング形式)	0	14	0	3	5	2	7	7	1	1	7	12	10	4	4	4	1	1	1	1
13	1	1		現在のほうが意識は高い	現在のほうが履修内容、方法は深まった	① 全ての単位を対面式(スクリーニング形式)	0	14	0	3	5	2	7	7	1	1	7	12	10	4	4	4	1	1	1	1
14	1	1		現在のほうが意識は高い	現在のほうが履修内容、方法は深まった	① 全ての単位を対面式(スクリーニング形式)	0	14	0	3	5	2	7	7	1	1	7	12	10	4	4	4	1	1	1	1
15	1	1		現在のほうが意識は高い	現在のほうが履修内容、方法は深まった	① 全ての単位を対面式(スクリーニング形式)	0	14	0	3	5	2	7	7	1	1	7	12	10	4	4	4	1	1	1	1
16	1	1		現在のほうが意識は高い	現在のほうが履修内容、方法は深まった	① 全ての単位を対面式(スクリーニング形式)	0	14	0	3	5	2	7	7	1	1	7	12	10	4	4	4	1	1	1	1
17	1	1		現在のほうが意識は高い	現在のほうが履修内容、方法は深まった	① 全ての単位を対面式(スクリーニング形式)	0	14	0	3	5	2	7	7	1	1	7	12	10	4	4	4	1	1	1	1
18	1	1		現在のほうが意識は高い	現在のほうが履修内容、方法は深まった	① 全ての単位を対面式(スクリーニング形式)	0	14	0	3	5	2	7	7	1	1	7	12	10	4	4	4	1	1	1	1
19	1	1		現在のほうが意識は高い	現在のほうが履修内容、方法は深まった	① 全ての単位を対面式(スクリーニング形式)	0	14	0	3	5	2	7	7	1	1	7	12	10	4	4	4	1	1	1	1
計	14	11	3	7	15	5	14	0	3	5	2	7	7	1	1	7	12	10	4	4	4	1	1	1	1	

小学校2種免許特別プログラム(数学教員養成プログラム含む)履修に関する意識調査 集計表【記述】A

	3.入学の際、小学校免許取得可能な教育学部へ入学しなかった理由を選択してください	4.受講開始した時点と現在を比較して、小学校免許取得への意欲はどのように変化しましたか？	5.4の回答理由は何ですか？	
NO	【①を選択した方のみ】なぜそのように思われたか理由を自由に記してください	欲現 は在 高の いほ うが 意	変 化 は な い	か う 受 つ が 講 意 開 始 時 高 の ほ
1		1		履修することで内容が具現化したから
2	元々中高の数学の教員をめざして小2免プログラムは卒業と同時に小中高の免許が取得できるというのがとても魅力的でした			1 夏のスクーリング、レポート科目試験も含め通信の勉強と普通の大学での勉強の両立がなかなか難しい為
3				1 想像以上に中高と並行して免許を取得することが忙しく大変。
4			1	元から努力して取得したいと思っていたのでその気持ちは変化はない。
5	英語が重視される世の中になってきているので、英語の免許をもっていることで有利になると考えたから		1	特に変化はない
6	・自分の視野を広げたかったから ・最近発表された答申のように小学校の英語の専科の教師を置く働きになる予測をしていたため、その際に小学校英語専科の教師を養成するコースを大学に設置するまでどこから人材をとるか考えたとき、小学校と中高英語の免許を持っている人から登用するだろうと考えていたため			1 玉川大学は他大学と比較して課題が多い為、小学校免許取得との両立が難しく、内容を学ぶより「こなす」イメージが強くなってしまったため
7	英語の免許を取ったのちに、小学校英語教育にもいかせると考えたため	1		1 学業とへいこうして、小2免も行うことができているため
8			1	1 中学校で採用試験を受けようと思ったが、それでも小学校の免許はしっかり取得しようと思っているから。
9				1 計画的に行う厳しさや、スクーリングを受講したくても、スクーリングの費用があまりにも高すぎるため、学生にとっては痛手である。学習したくても、現実を見てしまうと意欲がだんだん低くなっていった。
10	私は、現在の専攻科目である中学校、高校の英語の免許をまず取得したいと考えてこの学部に入りました。自分自身の視野を広げたい、また今後の外国語教育のさらなる広がりを考慮し、小2免許の取得を目指しました。	1		1 月に一度レポート提出・試験ということで、仲間と協力しあいながら、行っているから
11				1 レポート期限やテストなど定期的に決まっているので、それに向けていわば機械的にやっているという表現が正しいのかもれません。しかし、他の課題や自分の学習に追われる中でも小2免の勉強ができているのは、常に小学校教師になった自分の姿を想像し、意欲を維持できているためだと思っています。
12			1	1 昔も今も教職に対する熱意は変わらないから
13		1		1 小学校へのボランティアやJ-shineの実習で小学生とふれ合う機会が増え、本気で小学校の先生になりたいという気持ちが高まってきたから。
14	一番学びたい、研究したいのは芸術教育であり、どのように活用可能であるか、そもそも基本と成る児童教育の在り方とは何かを同時に学びたかったから。			1 教育実習行ったら変わるかも。具体的に想像する余裕がない。
15		1		1 小学校の教員になることを第一に考え始めたため。
16	教員としての幅を広げたかった。			1 小学校の教師になることを第一希望にしてはいないが今後役に立つ可能性もあるのでとる意志はあるから。
17	英語の免許はもとからだろうと思っていた。入学後にこのプログラムを知り、これからは小学校でも英語が必要となってくることから、持っていたら有利であると思った。	1		1 もとは中学教師が夢であったが、夏期スクーリングで各先生方の講義を受けているうちに、小学校の教師も魅力的だと思うようになった。
18		1		1 思っていたよりもレポートなど難しいため意欲的にやっていたいかならないといけないと感じたため。
19		1		

小学校2種免許特別プログラム(数学教員養成プログラム含む)履修に関する意識調査 集計表【記述】B

NO	7.小2免プログラムの履修方法について、以下のどの履修形式が望ましいですか？	8.本プログラムにより通学課程の授業と、通信教育課程の授業・レポート作成・試験による単位取得方法の両方を体験して、そのような力がついたと感じますか？
	その理由	
1	テキストのみでは理解できない点が多いから	時間を効率的に使えるような計画を立てる力が身についた
2	夏季のスクーリングに参加し、とても勉強になりました。テキスト履修だけではわからないことが多かったため	どちらの授業でも同じことを勉強したことがあり前に勉強したときはあまり分からなかったことが理解できたり、繰り返し学習できるような気がします。
3	単位分全てをスクーリングで受講することは難しいが、より多くスクーリングで受講した方が、授業で理解が深まり単位の取得もしやすくなると思うから	普段は英語教師になるための授業を受けていて、小学校で全科をどう教えるのか全くわからなかったが、実際に授業を受けてイメージが湧いた。それぞれの指導案の書く力がついてきた。
4	スクーリングで他の人の意見などを聞くことも重要と考えるから	レポート力、コミュニケーション能力、試験慣れ
5	現状に満足している	自分を追い詰める力
6	本当ならば対面式で取得したいが、そこまで時間が取れないため。	通学課程では得られなかった自己啓発力
7		自分で調べる力
8	レポート学習も必要だが、やはり対面式のスクーリングの方が学びやすいから。	文章を書く力、初対面の人も協力して話し合う力は特についたと思う。
9	履修登録時に、スクーリングは単位数が6単位、他はテキスト履修という制限がかけられていたため。	すくーりんぐでの授業は興味深く感じたが、レポート作成に関しては、あまり力が付いたとは感じられない。
10	それぞれの良さがあるから	まず、読解力そして文章力がついたとともに、一般教養もついたと思います。
11	現在の履修スタイルに不満はないから	自分を追い込み、ひとつの目標に向かってがんばっていく力。
12	どちらも良さがあるから	内容については知らないことばかりだったため、科目についての深い知識を得ることができた。
13	対面式のみでは大学での勉強との両立が厳しい。しかし、テキスト履修のみでは、理解が深まらないと思うため。	計画的にレポート作成や試験勉強をする力がついたと感じた。
14	本で学ぶことは通信でなくても出来る。教員がどのように私たちに教えるのか、その授業法までもが学びたい内容であるから。短期集中型で修得できる。	時間が無い。自分の余裕の無さを理解する力がついた。
15	学部内の勉強、教職科目も重要だと考えているため、スクーリングに通う時間が削減できると思ったから。	時間を効率良く使うようになった。
16	スクーリング授業を受けた方がわかりやすい授業もあるから。また、テキスト履修は通信でとるメリットの一つと考えるから。	計画性をもって取り組む力。
17	テキストだけではやはり内容理解が深まらない。時間にしばられてしまうという欠点はあるが、そのほうが力がつくと思う。	計画的行動力、集中力
18	スクーリングは、よく理解ができ、とても役に立つとおもう。レポートは調べてまとめる力がついたため役に立つと思うため。	スクーリングでは、コミュニケーション能力がついたと思う。また、良い授業とは、、、ということを考える良い時間だった。レポートは、必要なことを調べてまとめる力がついたと思います。どちらも、教職に対する理解が深まった。
19	自分の生活スタイルに合わせた学習をすることができる	課題文から何を求められているのかを読み取る力

3.小二免許特別プログラム受講者修了者ヒアリング

小二免許特別プログラム 受講修了者（採用試験合格者）ヒアリング

【出席者】

- ・森山賢一（玉川大学教師教育リサーチセンター長：委託事業実施責任者）
- ・田子 健（東京薬科大学教授、玉川大学客員教授：委託事業実施分担者）

- ・芸術学部パフォーミング・アーツ学科（音楽） K（川崎市小学校）合格
- ・リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科（英語） M（東京都小学校）合格
- ・リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科（国語） N（千葉県小学校）合格
- ・工学部マネジメントサイエンス学科 T（栃木県：中学（数学）合格）小学校併願

森山：今日、皆さんにお集まりいただいたのは玉川大学が今年度（平成26年度）、文部科学省から委託事業「総合的な教師力向上のための調査研究事業」に採択を受け、その研究を進めるにあたりご協力をいただきたく、お集まり頂きました。本事業は代表を学長小原先生、教師教育リサーチセンターで研究の実施を責任もってやることになっています。具体的な内容として、皆様に本日ヒアリングさせて頂くことは、特にダブル免許プログラム（小学校2種免許取得特別プログラム）のことで。

皆さんは、それぞれの学部にも所属し中等教育教員養成のなかで中高の免許を取得の上で、小学校の教員免許をあわせて取得されるということでの、いわゆる複数免許のプログラムを受講されました。そういう意味での調査をさせていただきたいということでお集まり頂きました。今日の流れとしては、この研究の責任者である二人（田子、森山）で進めさせていただきます。二人からいろいろと質問させていただきたいと思います。まずは最初のあたりのところは田子先生に質問させていただきたいと思います。自由にざっくばらんに思ったことを言っていていいです。大学としては、皆さんの後輩の指導にも役立てたいと思います。正直言いますと私もみなさんと考えは同じで、玉川大学のいろんな学部を出られた方が小学校の免許をとっていただいて、そして、中学校に勤めるもよし、小学校で勤めるもよいと思っています。では、田子先生お願いいたします。

田子：今日は本当にありがとうございます。私はこの玉川大学の芸術学部の授業を担当していて、客員教授で玉川大学に来ています。Kさんには前にも授業でお会いして、見事合格されたということでよかったですね。先生というのは、本当に自分から教えるっていう気持ちがないと一日も務まらないという仕事なのです。そうした気持ちを最初からね、持って大学に入ってきてくださっていると思うのですけれども、



大学に入学して、どんなことを学んでいくかっていうことを具体的に分かって、そのうえでもう一つ、先生としての仕事に結びついていくことを大学で皆さんと深めて行きたいと思っているのですが、うまくいっていることばかりではありません。皆さんのように合格をして、これから希望の進路を選んでいる人はいいのですが、途中で、カリキュラムが難しいとか、あるいは、先生という仕事になかなか興味を持てなくなってしまったとか、そういうこともあります。せっかく大学に入ってきた皆さんは、いい進路でね、先生になってもらいたい。これから大学の教育をよく変えていきたいという気持ちもあるので、今日は、我々の質問に答えてもらうだけではなくて、我々に質問してもらって、こういうところは一体どうだったのかと 4 年間で振り返って追求してもらっても結構ですので、本当に自由に話し合いができればと思います。それで、まず最初に、今日来ていただいた方の所属している学部と学科、お名前、それから何の教科を教えるかどんな進路先かということをお話しいただきたいのですが、誰からにしましょうかね。じゃあ、Kさんお願いします。

K：はい、芸術学部パフォーマンス・アーツ学科のKと申します。

私は小学校 2 種と、中高（音楽）の免許をとりました。受けたのが川崎市の小学校で、川崎市の教員に春からなります。よろしくお願いたします。

全員：お願いします。

田子：川崎市の小学校に決まりましたか？

K：そうです。

M：リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科のMといいます。私は、小 2 免許特別プログラムで小学校の 2 種免許と、中高（英語）の免許、あと学部の小学校英語指導者資格（J*Shine）プログラムで J-Shine という小学校英語指導者資格（民間資格）も在学中に取得しました。4 月からは東京都の小学校で採用されることになったので東京都の小学校で働きます。よろしくお願いたします。

N：リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科のNです。中高（国語）の免許と小学校の 2 種免許を取得しました。千葉県に採用が決まりました。まだ、詳しい行先は決まっていますが千葉県で働きます。よろしくお願いたします。

T：工学部マネジメントサイエンス学科のTです。中高（数学）と小 2 免をとっていて、採用



試験は栃木県の中学校数学と小学校併願で受けまして、合格は中学校の数学ですけど、配属は小学校になる可能性もあります。よろしくお願いいたします。

全員：よろしくお願いいたします。

田子：すごいですね。関東全域に進路が広がっていますね。

森山：神奈川、東京、千葉、栃木。

田子：皆さんがその県を受験しようとした理由はどんな理由ですか？自分の出身地なのか、それとも何か別の理由があるのでしょうか？

K：自分は出身が長野県なのですが長野県の採用試験の傾向として信州大学の教育学部が優先になってしまう傾向があるという噂を聞きました。また、自分は地元を離れるために上京してきたこともあったため。現在私が一人暮らしをしている川崎市がとても住みやすく素敵な街だったので、川崎市で骨をうずめようと思い川崎市を受験しました。

田子：川崎の採用試験というのは、政令指定都市として独立してやっているんですけど、何か試験の準備で心掛けたことはありますか？

K：心掛けたことについては、まず、教職サポートルームで川崎市担当の指導教員の先生が、政令指定都市である川崎市で教員になるために必要なことについて細かい部分まで丁寧にご指導くださったので、それを忠実にこなせるよう心掛けました。

また、教育学部で同じ川崎市の教員を目指している仲間がいたので、一緒に互いの弱点を指摘し合ったり、どうしたら更に良くなるか考えたりと、仲間と共に同じ目標に向かって取り組むことが出来たので、一人で苦勞したというよりも仲間と共に戦えたので心強かったです。

田子：みんなで勉強していった方向が正しかったということかな。いい方法を選びましたね。良かったですね。では、Mさんどうですか？（東京は）出身地ですか？

M：そうです。東京は出身地です。他の所も練習で受けようと思ったんですけど、やはり自分の出身地が東京ということと、東京都は教育の最先端というか、何でも東京から日本へ発信されると感じていて、どうせ働くなら一番すごいところで、一番凄いついていうとあれなんですけど、その教育に力を入れていて、いろんなことに挑戦して取り組んでいる自治体で自分のことを高めていきたいなあと思って、やっぱり東京都だなと思って、私は東京都を受けました。

田子：東京都って、見ていてどんなところがすごいと思います？

M：東京都はやはり子どもの数が多いのに、対応しなければいけない問題がたくさん出てきて、たとえば、いじめの問題だったり、自殺の問題だったり、そういったものもあるので、それに対応していくために、何をすればいいのかというのを先生たちが熱心に考えているな、っていうのを身近で感じました。あと私は英語の免許をとっているのですが、英語に関してもオリンピックがあるということですのでごく英語に力を入れている学校もあって、区によって本当に様々なのですけど、例えば品川区でやったことをこっちの区でやってみようだとか、一つのところから発信して、いろいろな取り組みをしているので、そういうところがすごいなあと思いました。

田子：そうですね。なるほど。Nさん千葉県はどうですか？

N：はい。自分が（千葉県）出身地だったのと、今ボランティアでお世話になっている学校も自分の母校だったので、やっぱり、凄く親近感があるので地元で働きたいなあとって千葉県を選びました。

田子：どこか他の県とか地域とかに関心を持ったことはありますか？



N：まったく考えてなくて千葉県だけです。

田子：はい、わかりました。

T：はい。僕もNさんと同じで地元で働きたいというのが一番強かったです。

田子：やっぱり先生を目指すということで自分の生まれ育った地域で子どもをこれから教育して育てていきたいという気持ちは、大事な気持ちだと思うのです。その気持ちを生かしていくために大学での学びというのは、幅の広い基本の本当の学問から自分が教員として何をどう教えるかということまで繋がりがあがる。これを大学の4年間学んでこられたと思うのですが、同時にみんな4人とも小2免の特別プログラムを併せて履修していらっしゃる。教育学部以外の学部で教職の課程をとったのだけでも、専門の学部で学んでいて、隣にいる人は必ずしも教職を目指していないという環境の中で4年間継続してくるということは立派だと思うし、なかなか大変なことだったのではないかと思います。大学に入って来た時の教職をとりたいたいという気持ちを振り返ってみて、それから大学で学んでいく中で、どう深化し成長したのだろうかということをお聞きしたいと思いますが、まずは、大学に入る時に、先生というものに対してどんな憧れというか、どんな先生になりたいと思っていましたか？

K:私は高校を卒業したあとに、私立型の受験型で数学とか理系を全部捨ててやったのですが、ふと自分のことを思って、先生になりたいのに何で理系から逃げてやっているのだろうと思って、一回浪人したのですね。浪人している中で、自分ができなかったことができるようになって凄く楽しいな。と思いながらここに入学して、ここに入学したのは、小学校の免許と全部とれるということで入学した時に、憧れの先生というか、こう自分は今まで逃げてきてから、逃げてきて、(それを克服して)できるようになったから、それを伝えたいな(子供たちに)という気持ちでやってきたのですが、大学に入ってから、まだ漠然とこういう先生になりたいというのはなくて、とりあえず自分の夢に向かっていこうという考えでした。

田子:芸術学部で教職課程とっていた人は結構いたのですけれど、他の進路に進んでみたいと思ったことはありましたか?

K:ないですね。でも、教職の無い人たちが、いろんな授業をして、いろんなことを学んでいて、そういうのは行きたいけどダメなんだなあと思ったりとかしたこともありました。

田子:自分で考えてみて教育を専門で学ぶ学部で学ぶのと、芸術学部で学ぶのと教職につくことでどこか違いというのはあると思いますか?

K:違いは専門性だと思います。大学入ってから楽器をチェンジして、初心者から専門として入ったのですね。最初はやめろって止められたのですが、どうしても新しいことが知りたくて新しい分野に足を踏み入れてやってきたわけですが、打楽器を専門にやってきて、今までは、トランペットだったりピアノや歌を専門としてやってきたのですが、新しいことに挑戦したくて、打楽器を始めたのですが、それと並行して教職を学ぶことで、専門性というか、自分だったら子どもに、こう教える(教えたい)なっていう視点がある、のだと思います。

田子:新しい楽器を選んで、初歩から学ぶと、これが、子供が学ぶプロセスとよく似ているので指導の方法とかその考えを考えるきっかけとかになると、そういうことですね。そこは、やっぱり、専門の学部で学ぶ一つの大きな成果だね。

K:そうですね。

田子:Mさんは、リベラルアーツで学んで教員を目指したのですが、最初どうでしたか、リベラルアーツって?かなり幅広くあるでしょ?どうでした?

M:わたしは、小学校の時から先生になりたいと思っていて、教育学部を受験して落ちてしまっ

て、玉川大学が第一志望で、何故かという二種免許のプログラムがあって、どの学部に入っても小学校の免許がとれるということで、いろんな学部を受けたのですが、リベラルアーツ学部に入って、一年目は教職の授業というのがあまりなくて、数学の授業をとったりとか、宇宙科学とか社会学とか国語とか英語とかいろいろな授業をとって行って、最初は、もっと授業がうまくなるような授業を受けたいって思っていて、その指導法みたいなものを1年生の時から受けたいなと思っていたのですが、今となって考えてみると1年生の時にいろいろな友達ができ、例えば、N君みたいに国語を専門に先生になるとか、あと音楽をやっている子もいたりとか、オペラをやっている子とか、あとは脳科学を研究している子とか、ほんとにいろんな子がいて、4年生になっても、まだその子たちとは友達で、今になって考えてみると、1年生の時にそうやって（いろいろな授業で）であった人達と、こうやって、成長して4年生になって接していく中で、その子たちの夢とかを聞いたりすることで、自分の人生だけではなく他の人の人生も知れたり、専門分野のはなしを聞けたりして、教育学部に入ったことがないのでわからないのですが、教育学部は、先生らしい先生は育つかと思うのですが、こうやって、私たちの学部は特にそうなんですけども、いろんなことを知っている先生になれる。例えば、芸術学部だったら、音楽のことをこんなに知っている小学校の先生はあんまりいないと思うのですよ。その自分の学部で中学のことを学んだりとか、友達がいろんなことをしてる。先生だけではなくて、リベラルアーツ学部なんかは、いろんな企業とか、なんかいろいろなところへ就職している子が多くて、そういう子たちから話を聞いたりすることで、その視野が広がる。だから、その小学校の先生になるためのこと以外のことも、いろんなことが知れて、それはよかったと今になっては思います。

田子：小学生はやっぱりいろんな将来に対する夢や考えをちょっとずつ持ち始める時だから、そういういろんな進路を選ぼうとする友達と接してきたということは、これからの時代を生きる子供たちに夢を与える視野の広さを得たということはいいことでしたね。どうもありがとうございました。N君どうですかね。

N：はい。自分はリベラルアーツ学部で、最初は中学校の国語の先生になろうと思って、リベラルアーツ学部に入學して、それは、その自分の中学校の時の部活の先生に憧れて先生になろうと思ったので、部活も教えたくて、国語も好きだったのでリベラルアーツ学部に入學したのですが、小二免は可能性を広げるのにとっておこうと思って受講したのですが、学部で夏休みに北海道へ授業をしに行くプロジェクトがありまして、そこで小学校の教壇に実際立ったりとかする中で、小学生というのは先生が全教科教えなければいけなくて、その教科によってもまた子どもも違う顔を見せますし、それに凄く魅力を感じて、小学校を受験しました。やはりリベラルアーツ学部だからこそ、今もボランティアに行っていて、凄くいろんな子がいるのと同じように、リベラルアーツ学部もいろんな友達がいるので、自分の中の引き出しがたくさん増えたので、いろんな子供に対応できるようになったなという。教育学部だったら教師になるだけっていう、先生という道で走っているのですが、リベラルアーツ学部だといろんな寄り道も

できるのでごく視野が広がったと感じています。

田子：とってこれからの子どもに接することができる先生が育ちつつあるなど感じています。
T君はどうですか？

T：僕は基本的に、小2 免受講したのも玉川の工学部を受けようと思ったのも親のすすめなのですね。

田子：いいお父さんです。

T：教師をやっているのです。最初教育学部を受けて僕も落ちたのですが、工学部とか理系の学科に行って、教職の免許がとれると最初知らなかったので、親とか担任の先生に言われて、玉川で免許が取れることを知って受験しました。

田子：小2 免の、この特別プログラムについてということで、今日はお尋ねしたいということが話のテーマとしてありまして、これは森山先生からいろいろ聞いていただくんですけども、そのきっかけとして、小2 免プログラムというのはT君の場合はどうかたちで大学入る前に知ったかという、先生から聞いたということ？

T：小2 免は大学入って、2年生の時に受講するかしないかという話を聞いて、親に相談したところ受けた方がいいと言われて受講した。

田子：そうですね。みんなそんな感じですか？大学入ってから？（小2 免プログラムがあることを知った？）

K：私は入る前から、大学のパンフレットなどで、、、

M：私も入る前に

森山先生：入学する前に知っていたという方は、それがあから玉川大学入学ということの一つの動機に大分なったのでしょうか？

M：はい、そうです。

N：はい、そうです。

森山：2 免がそれぞれの専門の学部で取得可能ですというところが入学の志望の一つの要素にな

ったということですね。学校の教員、第一に中高の免許はとるということは前提で、加えて小学校の免許もとれるから、芸術学部やリベラルアーツ学部に入学しようと、そういう感じで思ったわけですね。教育学部を受験されたかたもいらっしやいましたけどね、結果的には同じになりましたね。ただ、道のりは違いますよね。4人ともそれぞれの道があって、その中で小学校のライセンスという形に結びついたということが、よくわかりました。私自身も教職大学院に所属しているんですけども、教職希望以外の学生は誰もいない。ある面では純粋な集団なのだけど全体からみると特殊な集団、そういう意味でいけば皆さんの場合はいろんな人の中で、その中で、の自分の教職という資格をとって、その教職を履修したいということで、ゴールまで4年間いったということですね。いろんな経路があっていいんじゃないかなあと私なんかは実感しています。具体的な質問ですが、特に小学校の2種免許3年次から2年間の学びを集中的にやりましたね。1.2年の単位も当然あってのことでの2免は成り立っているわけですけども、2年間とくに2免とそれぞれの学部の免許、いわゆる中高の免許を取得して、最終的に卒業の時にどちらも取得できるというかたちになったわけですけども、このW免に限定してお伺いをまずしたいと思います。受講した時点、3年生のはじめの頃かあるいは2年生の終わりの頃をイメージして、小学校の教員に対しての意欲とか気持ちとか、小学校の免許に対する思いが、現時点（採用試験を合格して、3月に免許をもらい4月から小学校ではたらくという今）でどう変化したか聞かせてください。

K：指導法をW免で学んで来たのですが、テキストを読んで、自分で消化してレポートにして出したり、スクーリングだったりするのですが、特にレポートの場合は机上の空論というか書いていて終わる。ボランティアに行っているのですが、ボランティアに行くと、「あっ、そういうことだったのか」に気づくことが多かったのが、現場を見つつ、レポート課題をやると分かる。もし、ボランティアに行っていなかったら、ちょっと机上の空論なのかという印象がある。

森山先生：もし、ボランティアに行かなかったらイメージがわかなくて、なかなかモチベーションが上がっていなかったかもしれないということですね。ありがとうございました。

M：私は3年生の時はレポートを終わらそう終わらそうと考えていました。ボランティアもしていたのですが、なかなか学んだことを生かす場があまりなかったです。今もボランティアをやっているのですが採用が決まってから、テキストで学んだことをやってみようとか、例えば児童心理とかで、テキストを読んだことをやってみて、これはこういう時に使うものなのかなあとか感じるようになり、そういう変化がありました。

森山先生：やはり、テキスト履修の次の段階として、実際にボランティアに学校に行くと、そのことにより意欲とかやってみようとか小学校の教員になりたいなあとか早く教壇に立ちたいなあという気持ちがどんどん上がってきたなって感じですかね。テキスト履修だけではなんとなく、

やっけていてもピンとこないわけですね。

N：自分は、夏のスクーリングに出たことが自分の経験として、すごく大きくて、いろんな社会人で働いている人や現場で働いている人の話を聞いたことで、スクーリングに出たことでいろんな知り合いが増えたので、そこで聞いた話などがすごくモチベーションになりました。あとは先ほども言っていたように、自分も図工科指導法などで学んでいたことを実際にボランティア行っけて図工で子供をどうほめるとかも凄く勉強になった。

森山：スクーリングは年配の方が現在中高の学校の先生をなさけて小学校の免許をとりにくるという方もいらっしゃる。まったく集団がちがいますよね。ただ道はある程度同じですもんね。教員になりたいとか、あるいは小学校免許取得ということでは共通しています。私も昨年度までスクーリングの授業を担当していたのですが、70代の方とかいらっしゃいます。これは教職という意味ではなく大学の学士の取得のためにということでした。その中で20代の方も10代の方もいらっしゃるという、そういう中でいろんな交流を皆さんやっけてらっしゃいました。おそらくそういう意味での交流が今でも関係しているということですね。



N：はい

森山：そうですね。ありがとうございます。T君いかがでしょうか？

T：最初の方は、レポートを早く終わらせようとか、スクーリングをはやく終わらせようとか免許を取るために必死になっていましたがスクーリングで授業を受けて、指導することの楽しさを知り、採用試験へのモチベーションを上げるきっかけになった。学科の授業だけ受けていたら多分周りに流されて勉強が遅れたりしたと思うのです。小2免をやっけている中で気持ちの面からも入れていかないと、採用試験、受かったあとが辛いだろうとか考えるきっかけになりました。そういう意味ではやっけてよかったなと振り返ると思います。

森山：実際に指導法は具体的なことをやりますからそれによって、イメージが膨らんだりするのですよね。そういう意味ではテキスト履修だけの場合は、なかなかそこまでのイメージが湧かないけど、ただ、そこでテキストを通して勉強していたからこそ、現場へ行っけて、こうやっけてみようとかそういうことにつながったということです。とくに小学校の免許取得まで指導法という話ができましたけど、やはり、指導法の科目というのは、テキスト履修だとイメージが難しいでし

ようか？

M：教育実習の時にすごく困りました。授業を全然見ていなくて、自分が小学生の時の小学校の先生しか見たことないから、スクーリングでも模擬授業をしてくれる先生はそんなにいなかったです。全教科見られるわけじゃないので、テキストの指導案を見ただけでは、どういう風に授業をしていくかながれもわからなくてそれが一番困りました。

森山：なるほど、いかがでしょうか、みなさんご自由におっしゃってください。
指導法について、今もご指摘いただきましたが、

N：確かに教育実習を自分たちの学部で受けてから小学校に行く（実習に）ことはあっても、やはりそこでやる教科は自分の専門ではないので「じゃあ算数をやってくださいね、算数とこれとあれとやってくださいね」と1日実習の時に言われた時に、どう授業を組み立てていけばいいのかということが、自分の専門だったらこういう風に考えてやっていこうということができませんけど、そういうことが全くできなくて。自分は国語が専門というのは理系が苦手だからということもあるので、算数をどうしたらよいのだろうと。小2免を最初に受講する時に、自分で受ける科目をきめるので、その時に、算数とか理科は受けたら自分はダメだと思って、外してしまったので、理科指導法や算数科指導法の授業を受けられなかったのが今となってはすごく後悔しています。算数科指導法や理科指導法をとっておけばよかったなっていうのを教育実習で感じました。

森山：ですから、とにかく必要に受験して、その時とにかくがむしゃらにやって、なんとなくやりきったということですね。

T：スクーリングで指導法の授業を受けて、テキストだけだったら生徒の反応とか児童の反応などを予想するときに2つの方向でしか予想できなかったところが、スクーリングに来ている人たちと話しあったり先生に教えていただいたりすることで、自分では考えられなかった方向に考え方を広げることができ、受講していて楽しかったです。

森山：テキスト学習で自分で考えている一方通行の時よりライブの授業であれば、お互いに一緒に考えたりして、「私はこういう風にやるんだけど」ほかの人はね、「自分はこういう風にやりたけれど」というように、答えは一つではないという視野ができることはとても大きなことですよね。テキスト履修だけではなかなかそこは難しいところですね。まさに履修の方向というのは、テキスト履修のメリットはまさに、自分で一生懸命しらべたりして力がついたと思うのです。だけれども指導法科目や実習などのようなときには難しいときがあるといことですね。ありがとうございます。

では、全てスクーリング方式で取得するという事はどうでしょうか？レポートがなくて全部が

スクーリングの方式にするっていうのはどうでしょうか？

M：それはちょっと辛いかなと思います。得るものはすごく多いと思うのですが、やはり、他にもやって人間性を高めた方が（良いのでは）。私は、教師として勉強を教えるだけが教師ではなくて、子どもたちの心の支えになったり、良さを伸ばしてあげるとか（子どもと）共感できるのが本当の教師かなと思っているので、指導法で授業がうまくなるのはもちろんですが、旅行に行ったりとか、なんか部活やったりとかいろんな自分の趣味とか趣味じゃないことなどの幅を広げていくことも大事だと思うので、自分でバランスよくできた方がよいのではないかと思います。

森山：はい、ありがとうございます。他の方がいかがでしょうか？

N：スクーリングって最初3つまでと決まっているので、それは最初から決まっているので、そこは無い方がいいと思う。スクーリング多めにして、レポートもというか。その方が、受講するときの自分のスタイルに合わせてやるので、モチベーションとしても持続できるなどと思う。自分の友達で、3年生で辞めた人は、レポートが間に合わないというのがあったので、スクーリングだったら受けられたっていうのがあったので。

森山：そうですね。柔軟で弾力的なプログラムのほうがいいんじゃないかと、選択肢を広げた方が、スクーリング全部というのも問題だということですね。

学生：同意

K：スクーリング全部だと4年生の夏にもスクーリングをやるってことで、やはり試験対策にも難しいのではないかなと思いますね。教育実習が終わって、スクーリングになってしまうので、（スクーリング全部では）ない方がよいと思います。

森山：そうですね。T君どうですか？

T：まったくその通りだと思います。

森山：なるほど。そうすると全てがレポートも問題があるということですね。小学校2種免の方はすべてレポートと試験というのはどうですか

T：それが、自分だけでやると、さっきの、、、

森山：さっきの話スクーリングでいろいろな人の意見をきくことで自分で考えられなかった問題

の解決を学べることに繋がるわけですね。

N：レポートだけだと、自分も本当に試験を受けなければいけない、レポートを出さなければいけないとなると、どうしてもレポートがおろそかにじゃないですけど、本当に一夜漬けな感じで書いて作ってしまうので、全部レポートにすると本当の学びにはならないのではないかと。

森山：学びが深まらない、やっつけ仕事になっちゃうということですね。なるほどね。いかがですか？（Mさん） どうですか？

M：私はさっきのN君の意見に賛成で、やはりスクーリングとレポートを自分で選べた方がいいのではないかと。レポートは苦手だけどテストはできるという子もいるんですよ。なかには。なので、自分の学習に合わせて勉強できれば、もっと自分の学びたいものは自分でとって、というようにできるのではないかなあと思います。

森山：はい、そうですね。Kさんいかがですか？

K：例えば音楽科指導法って、テキスト見ても分からないですよ。実技系はやはりスクーリングで受けた方が絶対身につくと思いますし、だからと言って、レポートだけにするって言うのも難しいのではないかと思います。

森山：やはり、これも先ほどの指導法も含めてですけど、状況に応じて弾力的に履修方法を考えていったほうがよいということですね。では、テキストのみでは理解できないなあという教科は何ですか？覚えている範囲でよいので。

N：体育。体育科指導法を見ていると、どういう風に子どもが体が発育していくのかというのは学べたのですが、では、実際にどのような体づくり運動をして、どういう内容でスキルアップ、スキル運動していくのかとか、ということが全くテキストだけだとイメージできないですし、自分が実際に動いてやらないと、どういう運動なのか、じゃ、どういう指導をおこなえばよいのかということが全然わからなかったなあと思います。

森山：せめてDVDとかね。

N：はい。なんかそういうのがあれば（良かった）

森山：そういう補助教材があればいいということですね。

学生：（同意の相槌）

森山：いかがですか。他に、体育についてはみなさん「うんうん」って言ってらっしゃいますが、他の科目はどうですか？

M：音楽。ちょっと（はっきり）覚えてないですが、楽器の使い方で唇のかたちとかこうやって書いてあるけど、楽器がないし、絶対できないのだけどって、それは、ちょっと「へーっ」って読んだだけで、多分「やれっ」って言われたら実際できないかなあと思います。

森山：説明だけして自分はできないってことですね。他は、いかがですか。芸術系から見てどうですかKさん？

K：わたしは、実技系は全部スクーリングでとったので。あとは多分大丈夫だったのかなと思うのですが。結構いろんな教材に文章だけではなく、図とかがあったので、「あっ、なるほどこういう風にやれば良かった」と分かる教材が多かったのもその点は、理解しやすかったと思います。

森山：ありがとうございます。他の教科はないですか？

T：体育で、実際にスクーリングやれたので、動きを。はい。

森山：なるほど、イメージ通りできたってことですね。ありがとうございました。玉川大学は、みなさんに履修して頂いたとおり、通学課程のいわゆる、其々の学部の中で中高の免許課程を履修されて加えて、このダブル免の場合は、通信教育課程による、授業を受講したり、レポートを作成して、その後試験による単位取得という形の両方を4年間の中で実施しているわけです。ある意味ではすごく凝縮して、二つのものを期間を同じで履修されて取得されたということで、力がついたと思うことってありますか？通信において夏休みのスクーリングもやったレポートも書いた、試験もやった学部のほうのレポートも書いて、いろいろやったんですよね。4年間ふり返って何かありますか。N君どうですか？

N：自分は二つありまして、ひとつは、同じ科目を2回とったりするので、採用試験の時の筆記試験で、でる教育法規とか教育心理とかすごく「これやったやつだなあ」というのがあったので採用試験にはよかったと思う。自分の学部で専門の教科があったぶん、実習（小学校）へ行った時に、「この教科は大丈夫だな」という自分の武器になる教科が、国語があったので、そこはすごく両方で学べてよかったのではないかなと思う。

森山：それは、だいぶ力がついたのではないかと、、、。N君に口火を切ってもらいましたが他の方はどうですか？

M：私は、スクーリングで教育の方法と技術という 3 年生の夏に受けて、その時に子どもとの接し方や授業の進め方というのを自分の学部の指導法の時よりも、凄く詳しく教えてもらって、それを中学、高校の英語の模擬授業の時に生かしたりだとか、実際に中学でも生かしたりとかすることができたり、あとは、友達に指導法の時のことを教えてあげたりだとかそういう風にできたことが凄く良かったと思います。私は英語の免許をとって、小学校でもまた英語が始めるので、今小学校の先生方は、結構、英語が分からないという先生が多いのですが、その中で、自分は中学、高校の英語の免許を持っているとか小学校英語の資格をもっていることが強みになって、他の教科はまだちょっと分からないのですが、専門性（他の教科）に欠けているところもあるのですが、そうやって自分の強みがあるので自信をもって子ども達に教えられることがいいのかなぁと思います。

森山：はい、ありがとうございます。では、他の方はいかがでしょうか？

K：私は、音楽が専門なのですが小 2 免の音楽科指導法のスクーリングをとったんですよ、何故かという、私たちができる、あたり前で、できない子って何ができないんだろうって思って、スクーリングに行ったら、いろんな人がいるから、多分できない人もいるし、それを把握できれば、何ができないのだろうと考えられるなと思ってとったのですよね。やっぱり、そこで躓くのだから、そういう風に考えるのだからってことがスクーリングを通して分かった ので、とって良かったというのもありましたね。レポートとかはギリギリにやるのではなく、 計画を立ててやるというところでは身についたなと思います。

森山：自分で一応計画をして、その通りになるべくやろうという計画性がついたということですね。では、いかがですかT君？

T：みなさんが言ったことと同じで。学科の友達と話していて、小 2 免をやっていた方が、知識が広がったかなというように思いますし、採用試験に繋がったとも思いますし、あと、Kさんが言ったように計画を立てて勉強するという面でも、今までも計画は立てていたのですが、より一層定着したかなぁと思います。

森山：自分で自分をコントロールしていかないといけないという感じがあるのですね。今、お話をうかがっていて、小学校免許をとっていたからこそ中高で良かったなぁ、役に立ったなぁと思うことがありますか？

K：地域によって、生徒の実態というのはそれぞれなのですが、時々音楽の人でもわかってない理解できていない時に、自分がどうやって説明していけばよいのだろうと思ったのですが、小学校の指導法を受けて、「これは、こうだね」というのを聞いて、あっ、そうやって説明すればよかったんだな、ということがあったので、子どもというか、分からない子にもわかりやすく教えられるっていうのは、やはり小学校の方法がいいかなって感じられました。

森山：ありがとうございます。

N：自分は、中学校の教育実習に行った際に、国語だけではなくて、朝の自習とかで数学とかみる機会があったのですが、そういうので躓いている子というのは、小学校の算数で分かっているところもあったので、小学校の勉強をしていたからこそ、そういうところで躓いていることが分かって、教えることができたことが、小学校を受けていて良かったなあと思います。

森山：なるほどね。数学で特にね。影響あるかと思うのですが、いかがでしょうか？

T：小学校でも、数学課程だけだったら、指示があいまいでも中学生にとっては、あいまいというのも何ですけど、小学校もっと明確にやらないといけないじゃないですか、中学校だったら、「教科書何ページ開いて」って言っても小学校だったら「まず教科書出して、何ページ開いて、ここ見て」とか、そういう細かい指示を小2免で知れたのはよかったと思います。実習でも唯一褒められた点が「指示」だった。それは、小2免やっていたからだなあと思います。

森山：そういう感覚で身につけているということですね。ありがとうございます。

今度は逆なのですが中学校や高校の免許をとって、勉強しているからこそ、小学校の実習とか小学校の免許の課程で結構役だったなとか、小学校だけじゃなくて中高やっていたからこそ、良い面があったなあという思われる場面が、なにかありますか？今度はT君から。

T：はい。中学校、学科の勉強ではありませんが2次試験の面接で、中学校は中学校でいろんな教科の理科の人達と集まってやった時に、その理科の子が言っていた指導のやり方を聞いて、それを良いなと思ったのを、小学校の実習で理科の時に実践できて、パワーポイントを使ってクイズを作ったのですが、それをやって、意外と子どもの評判が子どもの反応が良かったので、中学校でもとっているいろんな人の話を聞いたことが生きたなあと思います。

森山：中学校教員にかかる免許状の取得での学習内容が今度は小学校教員免許取得の中でも役に立ったということですね。なるほどね。それは理系の分野でやられたということですね。はい、では、N君いかがでしょうか。

N：はい。自分は国語を学んだことで、小学校の教育実習では、国語を本当に普通の教育実習ぐらい〇コマ数持たせていただいて、一科目やったのですが、そこで、中高でやったからこそ、「こういう話があつてね」という中学校ではこういうことを学べるとか。いろいろなその先のことや豆知識として話としてできたので、その分、子どもが「あっそうなんだ」と結構興味を引いてくれて、そういうのができたのはやっぱり、中学校で1回実習をやったからだと思います。

森山：やはり、深く勉強したものがあつた程度、小学校でも転用できたということですね。

M：はい。私は、英語なので、そんなに小学校の授業で生かしては無いのですが、中学高校で英語はどういうことを学ぶのかということはある程度知っているのですが、小学生に、これは英語でなんて言うの？とか質問された時に、こういう風に言うのだよ。中学校で習うから楽しみだね。とか子ども達に見通しをもたせられことが逆に良かったかと思ひます。

森山：なるほどね。専門でだけで勉強しただけでなくて、教職の英語、教職の国語ということで、あるいは教職の数学ということで勉強しているから、非常に小学生に適応できるようになっているということですね。英語はこれからすぐに英語は課報される教科になりますもんね。

K：私は実技系なので子ども（の前）でやってみると、みんな「本当に凄いな」と言ってくれるという感じがあるのと、中学校のビジョンを先に見たので、中学校で、あーしなければいけないので、小学校では、きっとこういう力を身に付けなければいけないなということが分かったので、中学校の課題を中学校で消化するよりも、小学校でちょっとなんとかすることはできないかななということが考えることができたので、その分良かったのではないかななと思ひます。

森山：おそらく、今お話を伺ったとおり、やはり、中学校までを見通して小学校の授業ということが、あるいは小学生に関わる内容が理解できるということですか。そういうことがうかがえるお話しでした。これは忙しかったかもしれないけど、その分逆もとても有効につながっているという感じで伺いました。

それでは、私の最後の質問ですが、この小中免というかな、小学校と中高免許の複数の免許をとるということは、みなさんにとっては頑張って、とつたことなんですけど、小学校の教壇に立つにも例えば、それぞれの専門の学部で勉強して、その中で、小学校の免許をとるのいいよと推奨したいですか？あるいは、その理由は、これだからこうだよ、という一番の理由はありますか？あるいは、このあたりは問題だよ、課題だよということがあれば加えて教えてください。

K：私は、勧めますね。人間性的にも学業的にも自分が伸びることができると思ひるので、私はすすめます。

M：私はやっぱり、その人にもよると思うのですが、ついでにとっておこうと思って、絶対に英語の先生になるとか、国語の先生になるとか決めている人だったら、私は、レポートで勉強しても身にならないのかと思うので、それだったら、中学高校の専門分野をしっかり勉強して、先生になったあとからでも小学校のことってまだ学べるから、やらなくてもいいのかと思うのですが、小学校をとってみたいなっていう子がいたら、絶対にすすめます。

N：自分は本当に最初は中学校の国語の先生になろうと思っていたのですが、とったのは、自分の可能性とか選択の幅を広げようと思ってとったので、とりあえず、とれるならとってみて、そしたら、自分のその選択の幅が広がるので、自分はそれですごく良かったので、その選択の幅を広げる意味で、本当にとるんだったら是非とったほうがいいかと思う。

K：僕も皆さんと同じように、勧めると思うのですが、でも、そんなに甘い気持ちではなくて、ちゃんととるのだという意志があるのだったら、すすめます。そうでないのだったら、両方中途半端になっちゃうので、ちゃんとそういうようなことが計画的にやれるなら、やりなよって言うと思います。

森山：ありがとうございます。田子先生何かありますか？

田子：みなさんの話を聞いていて、ダブル免と言われている、中高の免許と小学校の免許をとるっていうね、形式としては、2種類の免許をとるということなのだけでも、それによって、一つは、やっぱり、小学校と中学校との連携とか一体性とかということは今言われているのだけでも、そういうことが本当に学ぶ過程で力として身についてくるのだから。免許というのは形なのだけでも、その中に、みんなが、これから教育者として活動していく場合も、本当に必要な能力がね。学んでいる中で、身についてらっしゃるのだなということを感じて、私は、新しい気づきを得ました。それは、やっぱり、そのことが今日聞けたということは、この特別プログラムというのをやっていく真の意味があるのだと思ったので、とても今日は良かったです。私の感想を言わせてもらいましたけど。本当に、ありがとうございました。

全員：ありがとうございました。

森山：本当に今日は私も先生と同様です。すごく勉強になりました。教育学部とか大学院の方ばかり関わって、こちらのみなさんと初めて今日お会いしたのですよ。そうですね？

学生全員：はい。初めてです。

森山：そうですね。

田子：私の方がまだ（会ったことがある）

森山：皆さんに今日はお会いできて有り難いと思います。

これから、みなさんのような気持ちをもって小学校の免許をとりたいという人たちにも、また一生懸命支援をしたいと思います。まさに皆さんの後輩が、こういうかたちでの小学校の教員を目指していくことに対して、私たちとしては一生懸命サポートしていきたいと思っています。今後とも、よろしくお願いいたします。

また、4月から新しい職場でスタートされるということですね。それこそ自信を持って堂々と頑張ってもらっていただければ有り難いと思います。また、これから後も、皆さんの後輩たちのためにも、またいろいろお話を伺ったり、あるいはサポートして頂いたりする機会を、作りたいと思いますので是非ご協力いただければ有り難いと思います。今日は本当に貴重な時間をとっていただき本当にありがとうございました。

全員：ありがとうございました。

